

農業革新支援専門員プロジェクト活動 令和7年度取組 総合評価表

課題 NO.2 課題名 作業の省力化・効率化に向けたアグリテックの体系的な活用
(「アグリテック」関連課題)

計画期間 令和6年度～令和8年度

担当チーム員 : ◎田村、大河原、高橋、菊地 記述者 : 田村

対象名及び対象数 土地利用型農業経営体 5経営体

〔(有)高須賀農産、遠藤耕太、(有)かわつらグリーンサービス、
(農)中埴ファーム育み、(農)葉坂希望の郷〕 (アグリテック導入・活用経営体)

(1) 活動指標：普及活動の進捗状況等（月次活動計画の進捗度）

- ①担当班及び進行管理責任担当者 農業革新支援専門員チーム 農業普及指導専門監
- ②合計総現地活動日数 (64日／内計画日数63日)
- ③活動指標ごとの活動日数
- ・アグリテックの現地実証 (29日／内計画日数44日)
 - ・アグリテックの導入、活用に向けた支援 (35日／内計画日数19日)

(2) 成果指標

＜設定した目標＞

- ①アグリテックの体系的な導入事例が作られる
- ②アグリテックに対する理解が深まり、効果的な導入・活用ができるようになる

＜設定した目標に対する所見及び課題＞

- ①アグリテックの体系的な導入事例が作られる

(有)高須賀農産では、昨年度に引き続き、RTKと大容量ブームスプレイヤーを組み合わせた水稲乾田直播の除草剤散布を検証した。今年度は、少量散布技術も組合せ、作業時間を調査した。RTK・大容量ブーム・少量散布・ほ場の合筆を組み合わせることで、散布時間を慣行の1/3程度まで削減できることを実証した。農業者は、大容量ブームが高価なので導入は考えていないが、少量散布やほ場の合筆、RTKの作業効率の改善には効果を感じていた。

遠藤氏と(有)かわつらGSでは、水稲乾田直播でRTKと衛星画像センシング、高精度な肥料散布機の組み合わせによる可変施肥の実証を行った。ザルビオの地力マップをもとに基肥を可変施肥し、ザルビオで途中の生育を確認した。可変施肥により生育ムラが徐々に解消されたが、完全に均一にはならなかった。もとの地力ムラが大きく、可変施肥の変化量が足りなかったと考えている。(有)かわつらGSでは、前年に比べれば、生育が揃っていたようで、農業者には可変施肥の効果を実感してもらえた。

営農管理システムの導入では、新規導入～ほ場登録～作付計画までは実施することができた。(農)中埴ファーム育みは、事務員が紙ベースの日誌をシステムに入力する体制ができ、作業記録が登録できている。(農)葉坂希望の郷では、8人の作業員全員が入力する体制にしたが、なかなか実行は難しく、(農)中埴ファームのような入力支援の体制を検討することになった。

②アグリテックに対する理解が深まり、効果的な導入・活用ができるようになる

アグリテックに関する課題解決のため、アドバイザー派遣や自らが講師となって支援を行い、特に営農管理システムなどのシステムの選定、導入、効果的な活用を指導した。

営農管理システム等の導入促進のため、セミナーを開催し、導入効果の紹介や適切なシステム選定を支援した。今年度から、普及センターの活動にもシステム導入支援が増えてきたため、普及指導員向けの研修会も開催し、普及員の指導力向上も図った。普及センターが地域単位でセミナーを開催したり、システム導入に向けた個別支援の要請が増えており、営農活動の見える化のためのシステムの活用が拡大してきている。

	設定した目標	結 果
②定量的数値目標	アグリテックの体系的な活用事例の件数 8件	アグリテックの体系的な活用事例の件数 9件

(3) 対象から意見及び評価

ほ場の地力のムラが大きすぎて、可変施肥をしても均一にはできなかったが、可変していなければもっと収量ムラが出来ていたと思う。来年度は、所有するドローンを使って追肥で可変施肥に取り組みたい。
(有限会社かわつらグリーンサービス 代表取締役)

(4) 関係機関からの意見

システム導入への伴走支援を行っていただき、感謝している。システムを効果的に使っている事例を収集して、普及拡大に向けて情報提供していきたい。
(ICT 企業 担当者)